

あいさつと抱負

会長

やなぎばし れい こ
柳橋 礼子

6月の総会、直後の理事会で会長に選任されました柳橋礼子と申します。どうぞよろしくお願いたします。新型コロナウイルス感染症は医療機関、施設の機能や役割に大きな影響を与え、未だ予断を許さない状況が続いております。改めまして会員の皆さまのご尽力に心より御礼を申し上げます。現在の早急な課題に対応しながらも地域包括ケアシステムの構築を目指す2025年も間近に迫っています。今後の会員の皆さまの活動を支援できますよう、また皆さまから必要とされる活動を実施してまいります。未来に向けて看護職の力を結集できますように尽力したいと考えております。



副会長

さ の ひろ こ
佐野 廣子

副会長3期6年目となります。首都・東京の看護専門職団体として、一人ひとりが「看護の力」を発揮して活躍できるよう会員の皆さまと社会貢献のために尽力してまいります。この2年超の新型コロナウイルス感染症対応では看護職の重要性が着目され、看護職の処遇改善等へつながりました。今後もさらに看護職の組織力を高めることが重要です。東京都看護協会が2040年問題を担う若い世代の看護職の皆さまにとって魅力あるものとなるよう活動してまいります。



副会長

ほんだ ひろ こ
本田 浩子

常に「Cool Head but Warm Heart」で物事に向き合いたいと思っています。新型コロナウイルスの繰り返される感染拡大等は住民の生活に大きく影響し、複雑化・多様化した健康課題が顕在化しています。今後さらに地域包括ケアシステムの構築に向けて、看護職間の連携、多職種の連携、住民の力を活用した支援等が重要です。看護職の専門性を高める人財育成とともに協会内外の活動を通して取り組んでいきたいと思ひます。



副会長

といし かず こ
砥石 和子

コロナ禍となり2年以上が経過しています。感染症が人類に多大な影響があることは理解していましたが、現実起こるとここまで市民生活に影響を及ぼすということを実感しました。しかし、日々看護職が市民、人々を支えていることを強く感じた日々でもありました。その看護職を支えているのが、東京都看護協会です。一人の力は小さくとも同じ志を持った看護職が力を合わせれば、大きな力となります。私もその一員として、東京都看護協会の理事として皆さまとともに進んでいきたいと思ひます。



専務理事

わたなべ ちかこ 渡邊 千香子

すでに人生の3分の2が終わり今さらの感はありますが、今はこれまで培ってきた知識や知恵、人生経験も含め後輩の皆さまに伝えていくことが、一番の役割と思っています。また、一般に日本人は自己肯定感が低く、自分に自信がない、つまらない、何に対してもやる気がでないという若者の割合も増えていると言われます。私は特別価値のある人間とは思っていませんが、どんなことをしても、どんな時でも、それは自分だからと自分を認めています。残りの3分の1の人生も自分を認め自分らしく生きていこうと思っています。



常務理事

さがわ きよみ 佐川 きよみ

令和3年3月末まで行政の保健師として公衆衛生看護に従事してきました。

今、地域では医療機関だけではなく、行政、子育て支援、障害福祉、高齢者支援、介護保険、地域包括ケア、産業保健などの多様な場で看護職が活躍しています。これからも看護職が活躍する場は、ますます広がるのではないのでしょうか。

多様な職場で働く看護職が集い、看護の質を高める場として東京都看護協会が貢献できるよう、尽力してまいります。



常務理事

よこやま こうこ 横山 孝子

6月より新任として着任いたしました。この時代だからこそ、活躍の場が広がっています。看護職の力が大いに認知されていくのだと思います。今がチャンスです。この機を逃さないよう看護職の皆さまのキャリアを支援すべく、最大限の努力を惜みず活動していきたいと思っています。



財政担当理事

ふじの きょうこ 藤野 恭子

コロナ禍において、久しぶりに現場に入り看護師たちとともに直接的な看護に携わる機会を得たことで、改めて看護の魅力を再認識する日々です。やさしい手と笑顔を忘れずに看護の心を大切にしていきたい。そんな現場目線を大切にしつつ、常に広い視野で俯瞰することを心がけ、やりがいを感じることでできる組織運営を目指しています。ウイズコロナは、看護の原点を振り返る機会、また多様な変化に挑戦する機会でもあり、あきらめない心で理事として務めてまいります。



保健師職能理事

かぐら おかすみ 神楽岡 澄

「置かれたところで咲く」を座右の銘とし、忘れることなく、何事にも前向きに取り組んでいます。今、世界的な災害ともいえる新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、保健師は住民の命と健康を守るため、保健活動の最前線で活動しています。しかし、未だ収束が見られず、長引くコロナ禍の社会において、人と人との交流のあり方の変化や健康格差の進展などから、新たな健康課題も浮き彫りになっています。私は、これら多くの健康課題に取り組み、公衆衛生の最前線で働く保健師の人材育成に、保健師職能理事として、少しでも貢献できるように尽力していきたいと思っています。



助産師職能理事

こびやま あつこ 小檜山 敦子

助産師職能委員長として2年目を迎えます。まだまだ、委員や東京都看護協会の皆さまに支えていただきながら四苦八苦している最中ですが、助産師の専門性を向上させるための活動を行っていきたく考えております。また、平時からの助産師・組織同士のネットワークがとても大切であると強く感じています。これからも助産師職能理事という立場から貢献していきたいと思っております。



看護師職能理事

なかの ひろみ
中野 博美

管理の大先輩からの教え「ケセラセラ」の精神で、何事も前向きに捉え進むことを信条として仕事に取り組んできました。今も続く新型コロナウイルス感染症の流行は、医療現場に重圧や何とも言えない閉塞感をもたらしています。看護はチームで力を合わせ、未来に続く今日を立ち止まらず進まなければなりません。今年度は、3期6年目の最後の年です。多くの課題が山積していますが、看護師職能理事として邁進いたします。



准看護師理事

とどろ き つばさ
轟木 翼

東京都の都心から離れた町田市出身で、職場は緑溢れる鶴川の認知症指定病院です。マイペースながらも仲間からは安心感があると慕ってもらっています。コロナ禍で日々変わる情勢の中でも、看護師が専門性を発揮できる環境は看護師全員が平等に与えられるべき権利だと感じており、これから看護師になる後輩たちのためにも、看護協会で諸先輩方のお力をお借りしながら、職務を全うできるよう貢献していきたいと思っております。



東部地区理事

さくま あゆみ
佐久間 あゆみ

東部地区理事として3期目となり、さまざまな医療機関の皆さまとつながることができる貴重な機会をいただけていると感じています。

実は性格は保守的で、前に出ることを好まないタイプですが、誰も信じてはくれません。ありがたい姿をイメージすることや、理想とする先輩の行動を真似ることで、変わっていったのだと感じています。そんな自身の強みを活かして、皆さまへ貢献できるように努めてまいります。



西部地区理事

おおぬま ふ く こ
大沼 扶久子

高校生の時、自己紹介で「大沼」が「大熊」と聞こえたのがきっかけで付いたあだ名は「くま」。くまのプーさんの言葉に『人生は経験を積むための旅なんだよ。解決するための問題ではないんだ』というのがあります。いろいろな経験の中で自己成長ができる。そんな機会を与えていただいたと感謝しております。会員の方へより有益な情報等を提供し、ご意見も頂戴したいと思います。ちなみに、ツキノワグマはお互いのコミュニケーションを取るために言葉を持って他者と交流しているそうです。私も相手の思いをしっかり受け止めつつ『言葉を尽くし伝える』ことを信条とし今後も励んでいく所存です。



南部地区理事

さとう み か
佐藤 美加

ウイズコロナの中、一人ひとりの感染対策行動が求められ、私たちの生活様式も変化しました。状況の変化に柔軟に対応しながら、看護職が安心して働き続けられる職場環境を目指しています。南部地区理事として2年目を迎えました。看護職として社会に貢献すべく看護協会の会員の皆さまとともに、看護協会が掲げる事業計画に協力し活動してまいります。



中部地区理事

きむら ひづる
木村 ひづる

2020年、COVID-19のパンデミックによる混乱の中で中部地区理事を拝命することになり、自院での対応に加えて地区理事の活動ができるのかと大変不安を感じました。しかし、理事の皆さまや地区支部役員の方々に支えいただき、何とか活動することができたと感謝します。

このような時にこそ、看護職が連携しさまざまな課題に取り組むことが重要です。2期目は、「看護職がいきいきと働ける」社会を目指し、地域の看護職の連携強化に取り組みたいと考えます。明るく前向きな道産子です。理事として少しでも協会の力になりたいと思っております。



多摩北地区理事

伊東 恵美子

新型コロナウイルス感染症が流行し、すべての人々の生活が一変し制限を強いられることが続いています。その中でさまざまな問題が発生し解決に向けた旗振りをしなければなりません。組織全体を俯瞰し決して後ろ向きではなく、患者・家族や職員の思いを受けとめ、前向きな思考で問題解決に向けて対応できる力が必須であると思います。レジリエンスを持ち「今できることは何か」を問いかけ、組織や地域に貢献していきたいと思っています。



多摩南地区理事

池亀 俊美

多摩南地区のスローガンは、「チームワーク(チーム力)・つながり・たま(多摩)、トリプルT~地域で連携力をアップしチーム力を上げる多摩南」です。再び、新型コロナウイルス感染拡大が懸念される状況ではありますが、多摩南地区の看護職に向けての研修を再開し、地域におけるコミュニティへ積極的に関わっていきまします。顔が見える、声が直接聞ける活動を展開していきたいと思っています。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



監事

川上 潤子

監事として2期目を迎えました。この職を拝命しました当初は、この役割を全うできるか、相当不安がありました。しかし、理事会への参加を通じて、東京都看護協会が看護の社会のみならず、一般社会においても重要な役割を果たしていることが見えてきました。病院で長年仕事をしておりました私にとって、この役割を担わせていただくことは、自らの視野を広げ、将来を見据えて取り組む力につながられる大変良い機会にもなっております。今後も私が感じることを、考えていることを共有させていただきながら、看護協会の発展に貢献していきたいと思ひます。



監事

山内 豊明

監事を務めさせていただいています。理事会メンバーの一員として東京都看護協会の事業を内部より見させていただきましたことによって、協会の重要性和その任務の多様性、そしてそれを果たしていくための多忙な様子を、これまで以上に肌で実感しています。与えられた責任の重さをしっかりと受け止めて、微力ながら職務を全うしていく所存です。今後とも何卒よろしくお願い致します。



監事

笠田 朋宏

公認会計士第2次試験合格後、税理士法人にて11年勤務しました。携わった業務は、主に法人税、所得税、消費税、相続税であり、専門分野は公益法人関連の税務業務、認定申請業務、定期提出書類作成業務、任意監査などです。独立後の現在も、税務業務、公益法人の会計指導などを行っています。近年、会計や税務においてもさまざまな改正などが増えていますが、監事の立場から特に会計面で貢献したいと思っています。



会長

やまもと けいこ
山元 恵子

2016年6月22日から2022年6月23日の総会までの任期6年間の任務を滞りなく全うすることができました。ひとえに会員、職員、役員の皆さま方のご支援、ご協力のおかげと感謝申し上げます。



この6年を振り返りますと、新会館の建築が最も大きな成果となりました。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力については、パンデミックにより開催が延期され、大きな状況変化が次々と起こる中、看護職の配置支援を行い、専門職の団体として大きな役割を發揮することができたと考えています。

新型コロナウイルス感染症対応では、対策等の政策提言、国内の看護師不足支援として北海道、宮城、大阪、沖縄への看護師応援派遣や潜在看護師へのワクチン接種等を実施しました。また、東京都内では東京ワクチンチームの発足により、四師会協働で中小企業を対象にしたワクチン接種に協力し、接種促進に寄与することができました。いずれも過去に例を見ない活動と関連団体との連携により、全国の先駆けとなる成果を生み出すことができました。

財務面では、賛助会員制の新設や看護職応援の申し出を寄附制度で受け入れ、医療用資材の提供、オンライン面会の支援、PCR無償検査等、さまざまな支援を迅速に実施することができました。

これらすべての経験と成果は、私の人生の最大の宝物です。皆さま方の温かいお力添えがあったからこそと心より御礼申し上げます。

重ねて会員並びに協会職員、関係団体の皆さまに心より御礼申し上げますとともに、今後とも、皆さまのご健勝と協会のますますの発展を祈念しております。

副会長

まつもと ひろこ
松本 弘子

「副会長の任期を終えて」

2022年6月の通常総会をもって副会長としての全任期が終了しました。東京都看護協会という組織や事業、それを取り巻くさまざまな団体や行政など、本当に多くのことを学ばせていただきました。新会館の計画・着工・移転に始まり、新型コロナウイルス感染症、オリンピックとまさに激動の6年間でしたが、やりがいもあり充実した6年間でした。多くのことを教えていただき、サポートしてくださった山元会長はじめ東京都看護協会の皆さまに心より感謝申し上げます。

今後の東京都看護協会のますますの発展を心から祈念しております。



常務理事

おおはし すみえ
大橋 純江

「常務理事の任期を終えて……御礼」

6月23日をもって常務理事を退任しました。6年の任期を無事終えることができましたのも会員をはじめとする看護職の皆さま、加えて関係各団体の皆さまのご支援の賜と厚く御礼申し上げます。特に、都内看護管理者さまには私の急な依頼にもかかわらず、さまざまな企画事業に多くのスペシャリストのご支援を頂戴いたしました。

私は任期の大半を、会員の皆さまの継続教育を担う重要な位置づけである事業を教育部のスタッフとともに担当してまいりました。2019年からのCOVID-19感染症によって看護職の業務環境が混乱する中でも、看護職の学びを止めないサービスの提供をモットーに実務実践、認定看護管理者、診療報酬に係る研修などや学会運営を中止することなく開催しました。また、ソウル市、台北市、インドネシアの看護協会さまとの交流企画や、医療事故等支援団体の委員として現場の看護職の支援にも携わることで、多くの学びと示唆が得られたことは、常務理事としての責務を果たすという使命があったが故のことと感謝する次第です。今後は、看護師基礎教育の現場に籍を移し、看護を通して社会に貢献してまいりたいと存じます。



准看護師理事

いとう
伊藤 ちえ

このたび、任期満了に伴い准看護師理事を退任することとなりました。2年間の在任中は会長並びに事務局の皆さまのご支援により、大過なく務めさせていただき、心より感謝いたします。この2年間新型コロナウイルス感染拡大や東京オリンピックなどの大変な問題を抱えながら、医療現場への支援、地域医療の推進、人材育成など変わらない協会の活動に尊敬の念を禁じ得ません。私自身もこの2年間の経験を活かし、一医療者として従事してまいりたいと思います。

今後の皆さまのさらなるご活躍をお祈り申し上げます。

